

日本花菖蒲協会会員だより

退会届けに添えて

須賀一博 埼玉県草加市

ご無沙汰しております。申し訳ありません。此の度は立派な苗をお送り頂きありがとうございます。私、昨年の2月(23年)に脳梗塞になりリハビリの為に長期入院して帰って見れば、「今浦島」は自分ではなく子供の花菖蒲がみんな白髪になってしまいました。昭和最期の年に9cmポリポット植えたものをビニール池で腰水栽培をしていましたが、不思議と殖えもせず減りもせず生き続け、水さえ切らさなければ時には立派な花さえ咲かせてくれていました。20数年植替えなしで生きていたものを、管理人?不在のため全滅させてしまいました。

私は昭和30年代初めに三越デパートでの協会展示会で入会させていただきました。その時購入した数本の苗で「花菖蒲入門」して以来、半世紀以上もお世話になりながら、何の協力も出来ずに申し訳ありませんでした。元はたった1本の「舞扇」を植えた30坪の畑でしたが、この品種が畑一杯に殖えた時は最高の出来でした。集めた花菖蒲を水田に植えたこともありましたが、これは雑草に負けてしまいました。また、一時は150品種程を鉢植え栽培して見ましたが大部、枯らしてしまいました。駄温鉢(5号)の方は土が沢山入ってよく出来そうなのに、前述の通り9cmのポリポットの方が品種保存に良いようです。元協会理事の鈴木栄一さんと知り合いになって随分とお世話になりました。私は貴重品種を分けていただくものの、栽培は失敗ばかりで期待に応えられず申し訳ありませんでした。配線の切れた頭を振り絞って思い出を綴りますと…

〔酒中花の思い出〕

50年前ぐらいでしょうか6月のある日、鈴木さんを訪ねた際に「今日、平尾先生と一途に遠藤さんの足柄菖蒲園へ行くので一緒に行かないか」と誘われ夫婦で一緒しました。途中、三池さんの

品種保存園を見せていただいたり、本田篤子さん宅では珍しい横文字ハルのついた野菜を拝見したりしました。遠藤さん宅へ着いた時、「酒中花」が2本同時に咲いていましたが、花色は同じなのに花形が微妙に違っていました。一方は鈴木さんが言う「本物の酒中花」で花卉が複雑な芸をしていましたが、三池さんのところから来たもう一株は、やや単純な花形のものでした。これを見た平尾先生は「同じ株が長年経過する内に変化したのでしょう。」と言われていました。その後、鈴木さんの意見を取り入れて、三池さんはこの株を捨てたとのこと。私はこの本物の酒中花を鈴木さんから頂いたのですが、噂どおり非常に弱くて直ぐに枯らしてしまいました。三池さんのところの株も作っていましたが、これは相当丈夫でしたので、何回かに分けて総会へ持参しました。合計10数本を持参したので、まだ生きていたら、それは私が持参した三池さんのところの酒中花です。その後、実生したところ全く同じようなものが出ましたが、結局は枯れてしまいました。加茂さんも持ち帰りましたがその後はどうなったのでしょうか。実はこのことを『創立30周年記念号』に投稿し、平尾先生からハガキで礼状も来ましたが、結局は、この原稿はボツになってしまったようです。

〔展示会の思い出〕

展示会の準備をなさる役員さんの苦労話を聞いており、小林昇さんは金屏風まで作ってしまうという熱の入れようでした。ここへ出品すると、平尾先生から珍種・珍品種の苗や球根を頂戴出来ました。私が「いずれがアヤメかカキツバタ」のアヤメ科の現物見本を出品した時には、ジャーマンアイリスの「ヒラオ・ゴールド」とい小苗を頂きました。普通のジャーマンは腐りやすくいつの間にか消えてしまうのに、この品種は畑の隅に植えばなしにして置いたのに拘わらずかなり殖えましたので、これを改良園の『園芸世界』や『アイリス友の会』から無料配布したことがあります。

た。

会費が遅くなって申し訳ありませんでした。少し余分にお送りしますから、お役立て下さい。長い間、お世話になりましたがこの辺で退会させていただきます。皆様のご健勝と貴会の発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

〔事務局より〕永年会員につきましては『創立 80 周年記念特別号』にて紹介させていただきましたが、その中でも須賀一博会員は最古参の一人だと思います。ご本人に直接、お会いされた方は少ないと思いますが、お手紙の内容から謙虚なお人柄が偲べれます。ご本人へは会長からの礼状の他に、記念品として本会報を数冊お送りさせていただきます。長年の間、協会への参加ご協力を賜りありがとうございました。また、此の度は協会へご寄付まで頂き重ねて御礼申し上げます。花時には何処かでお目にかかりたいものです。

真冬の京都三千院に花菖蒲咲く

山脇信正 鳥取県東伯郡琴浦町

1 はじめに

一昨年（2010年）12月、家内と京都に旅をした。若い頃、家族旅行で楽しい思い出のある大原三千院（門主小堀光詮大僧正）を訪れた。久しぶりの三千院でとても懐かしく、客殿からの紅葉真っ盛りの聚碧園の眺めは格別だった。秀吉の建立と言われている客殿は、約 80 畳の大広間で 2 つ



三千院門跡の御殿門

の床の間がある。暫く眺めているうちに、雪景色の聚碧園を背景に客殿に花菖蒲が凜として咲いて

いる情景が浮かんできた。善は急げと、早速、ご住職に真冬に咲く花菖蒲を寄進したいと申し出たところ、正月に是非飾って欲しいと返答を頂いた。

2 三千院に寄進した鉢植え

8年かけて研究した「花菖蒲促成栽培法」で正月に開花させるように育成してきた鉢の中から、清水弘氏（日本花菖蒲協会理事長）作出の「棚田の夜」、「氷河の鳥」、「若桜」の3鉢を選んだ。この栽培法は、2008年1月に東京都葛飾区「郷土と天文の博物館」の企画展「花の宴・堀切の夢」で日本の花菖蒲栽培史上初めてとなる「真冬の花菖蒲展」（日本花菖蒲協会後援）で全国に紹介された。

3 室内管理の仕方

三千院の真冬の気象状況を考えて、下記の要領で鉢の管理をお願いした。

- (1) 日中の室温は、18℃～20℃に保つ。
- (2) 日中は、昼の明るさ（300ルクス）が必要。不足する場合は電照で補う。
- (3) 日没から午後9時頃まで電照をして、室温を18℃～20℃に保つ。
- (4) 午後9時以降夜明けまで、無照明、無加温でよい。（0℃以下でも枯れない。）
- (5) 受け皿の水は切らさない。いつも受け皿に水が溜まっている状態にする。※鉢が水に浸かったままでも根腐れはしない。（鉢底から1cm位）
- (6) 一番花は開花してから4日～5日くらいで萎むので、花がらを丁寧に摘み取って、次の二番花の開花を待つ。5日～6日で二番花が咲いてくる。



三千院門跡の客殿に飾られた花菖蒲

4 おわりに

京都では、カキツバタをよく見かけるが花菖蒲は余り見られない。平安神宮の花菖蒲園は有名で

ある。しかし、東京では江戸時代から堀切菖蒲園をはじめ数々の有名な菖蒲園があり、庶民の園芸として盛んに花菖蒲が栽培されてきた。

京都は、町の雰囲気に花菖蒲がとても合うのに栽培が少ないのはなぜか疑問に思っていた。また、日本花菖蒲協会の会員名簿（2008年6月調べ）によると会員数がゼロの府県は、京都府、佐賀県、沖縄県である。私は、これを機会に毎年三千院に「真冬に開花する花菖蒲」を寄進させて頂いて花菖蒲の栽培法、栽培管理等々全面的に協力していきたい。このことが、京都のみなさんに日本の伝統園芸植物である花菖蒲の魅力を広く知って頂く機会になり、いつの日か京都の町々に花菖蒲が咲き誇る日が来ることを夢みている。この度の突然の寄進を快くお受け頂いた三千院の門主小堀光詮様、総務課長の辻山堯英様に心より感謝を申し上げたい。

水盤作りに取り組んで

前田 敏光 鳥取県琴浦

平成 22 年から水盤作りに取り組んで2年になりますが、今年は思うような成果が出ませんでした。年明けからの芽吹きは順調でしたが4月頃から少しずつ枯れて歯抜け状態が目立つようになりました。

6月に3回展示会が有りましたが、異なる品種を植えていたり、開花時期がうまく合わなかったり、株の表を外側に向けて植えていたりしていたので一鉢しか出展出来ませんでした（写真）。



展示会で会員の出展作を見ましたが、中央が高く花と花の隙間がバランス良く咲いていて全体が

まとまって見えたので今後の参考にしていきたいです。

今年も展示会を参考にして大きめの株を中央に配置して植え 30 鉢ほど植えています、自分では順調だと思っていましたが、9月に交流会を行い3人の圃場を見て回りましたが、皆さんの菖蒲が元気で色つやが良いのに驚き、どうも私の花菖蒲は病害虫に侵されて居るようなのですぐに消毒をしましたが、今後は2・4・9・10月の4回定期的に農業用殺虫剤のトレボン散布し来年には成果が出るよう育成して展示会に多く出展したいです。

伯耆の地に育った花菖蒲

金子嘉明 東京都世田谷区

今夏、大船の展示会が終わり、ホッと一息ついた時、山脇副会長から、今年の花菖蒲展の開催の目処が付いた、一時は開催が危ぶまれたが、近年入会された会員が、頑張って栽培されたのが立派に育ち、14回目目の花菖蒲展が、明日から開催する事になった、花も咲きそうだと連絡があり、夜に車で出かけた。早朝琴浦町に到着、展示会場を尋ねると、大船の展示会場よりも広い会場スペースに、見事な大鉢作りの花を中心に、丹波鉢作りの作品が数百鉢余と、山脇さんが丹精された浅鉢作りが展示されていた。この広い会場を花菖蒲で飾るのは大変だった事と思われます。13年間の長きに亘り、花菖蒲協会副会長の山脇さんが、一人で花菖蒲展を開催しながら、後継者を育てて来られたご苦勞の甲斐があり、14年目を迎えた本年は、前田氏、大谷酒造社長の協力で、豪華な花菖蒲展が開催できた由で、山脇さんの指導を受けられた、前田、大谷両氏の、花の出来栄は素晴らしく、良く丹精されて居り、その見事な出来栄は、師匠の山脇さんも凌ぐ位でした。これで来年からは自分の手から離れて、展示会は任せる事が出来ると、山脇さんは大喜びでした。長年伯耆の地から花菖蒲の発信をされて、仲間を募り、花菖蒲の普及に貢献してこられた、山脇さんの1株の花菖蒲が、大きく育って開花した様です。会

場は初日で大賑わいで、来館者の対応に大忙しでした。花菖蒲展の成功おめでとうございます。



琴浦町まなびタウンの展示会にて

左から大谷氏前田氏山脇氏金子夫人

最近山脇さんは、花菖蒲の促成栽培技術を確立し、東京葛飾区で展示、研究成果を発表されてから、早期栽培に関心を示す方々が多くなり、協会理事の小串氏と、横内氏は3年前から、早期栽培を手がけて、実績を上げられ、昨年正月には獺虎屋の店頭を飾り、注目を集めました。今年は京都の名刹三千院の本堂でも、新春に花菖蒲の花が咲きました。又、今冬に小串理事令夫人の、葬儀で椎野会長が小串婦人の好きだった、早咲きの花菖蒲を献花されました。今夏、滝谷花菖蒲園の社長が、山脇副会長宅を訪ね、早咲きの奥義を伝授され、滝谷花菖蒲園で、来春の早咲きの準備をされたとの由、青梅市の市川氏も、今年から早咲栽培を始められた様です。早期栽培の協賛者が増えて、おめでとうございます。促成栽培に取り組む環境が整うと、もつと広がる事でしょう。頑張ってください。何時も穏やかで、誰にでも別け隔てなく、どんなに忙しくても、花菖蒲の事となると、我を忘れて、夢中になり青年の様に張り切られる山脇さんは、伯耆の、否、花菖蒲協会の若大将と呼ぶのが、相応しいお方と私には思われます。今後もお元気で、花菖蒲界の発展と普及に、御力添え宜しくお願い申し上げます。

新会員の自己紹介の投稿

最近入会した方に投稿をお願いしました。今後ともよろしくお祈りいたします。

山形県長井市(観光振興課)

日本花菖蒲協会様には昭和 30 年代後半から会員に入れていただき、途中、財政危機の憂き目から脱会、再入会となりました。また、会員として仲間となった喜びに堪えません。

山形県長井市は山形県南部に位置し、最上川と置賜野川、そして白川という河川が還流する盆地にあり「水と緑と花のながい」を標榜する小都市です。あやめを市の花とし、白つつじを市の木とし、長井市の市章はあやめをデザインしています。それほどに、あやめは長井市を象徴する花でもあります。

貴協会とのつながりは、昭和 37 年に遡ります。当あやめ公園は明治 43 年に茶屋の庭先にあやめを植えたことが始まりですが、種類等よりも、きれいな花菖蒲を植えたものと思います。愛好家が花菖蒲の育成に行動を起こし、昭和 37 年に日本花菖蒲協会の方々が当地を訪れていただいたことが、大きく飛躍するポイントとなりました。その時においでになりました方は、井上清氏、田阪美徳氏、此田光助氏、総勢 30 名の来訪でした。翌日にあやめ公園に来園を願い、三鹿野季孝氏、岩鶴一良氏、後藤和二郎氏、平尾秀一氏が訪れた際、今の長井古種の発見となったことが、現在のあやめ公園のターニングポイントとなった出来事です。それから 50 年の時間がたち、今では長井古種が 6 割を占める公園となりました。長井古種は、長井市の宝となり大事に保存育成をしています。あやめ公園は、数次にわたり改修しておりますが、その中心には必ず長井古種を位置付けることが日々コンセプトとして守られています。

今、長井市の観光戦略の基礎となる「観光振興計画」を策定していますが、大きな視野に立ったものにすべく、協議中です。いずれにしましても、長井市のあやめ公園が中心となるわけですが、そ

の植栽デザインや観光公園としての見せ方など将来を見据えた計画策定に進まなければなりません。何と言っても、花菖蒲そのものの良さが基本となるわけですので、育成に十分気を配っていくことが重要と考えております。育成管理にはまだまだの感はありますが、精一杯育成に努めておりますので機会がありましたら、ご来園いただきご教授いただければと存じます。

今野 一彦 山形県長井市

豪雪の山形長井、雪どけと共に伸長し、出蕾して開花した時の花菖蒲の力強さに感動し、色鮮やかに咲く花菖蒲に魅了されています。

このたびは、日本花菖蒲協会の会報誌に寄稿させていただく機会を与えていただき大変光栄に思っております。私は平成 20 年に入会させていただきました。花菖蒲との出会いは平成 15 年と日が浅く、以前はあやめ祭りに来て見て回る程度でした。きっかけは平成 13 年に当時「あやめ公園」の管理担当をしていた観光課の友人からの依頼でした。長井の市章でもある「あやめ公園」の花が病害虫により育成不良を招いており、以前から長井市の特産開発にかかわっていた私にあやめ公園のデータ収集と育成改善を手伝っていただきたいとのことでした。

花菖蒲に関する知識が全くない私ですので、一から勉強であり、栽培経験者、長井あやめ愛好会の方々から基本的な管理から特性等を学びながら、施肥、防除体系の技術を構築してまいりました。

花菖蒲栽培は、大変奥の深いものと感じております。まだ、未熟ではありますが、協会に入会させていただきことで、新たな情報を得ることができ、より探究心を持ちながら花菖蒲と向き合っていきたいと思っております。

平成 22 年に「あやめ公園」開園 100 周年を迎えましたが、これも花菖蒲との不思議な縁があるものと実感しております。

最後に日本花菖蒲協会の皆様、会員の皆様のご指導、ご助言を賜りますよう、今後ともよろしく

お願いいたします。

○協会への要望

研修会等に参加したいのですが、なかなか日程や時間の都合がつかなくて残念です。会員交流の場に顔を出したいのですが、以前、花菖蒲のCDを購入いたしました。写真集CD（最新版）など協会独自に統一されたものがあればと思います。

鈴木 隆一 茨城県常陸大宮市

友人から花菖蒲の種子をもらったのがきっかけで栽培を始めました。いろんな花が咲くのがうれしくて3aの水田全面に植え付け初年目はみごとに咲きましたが、次年度以降樹勢が衰え栽培の難しさを実感しています。

へたの横好きで品種を集めるわけでもありません。ただきれいに咲いた花を見るのが楽しみでやっているものです。今後ともよろしくお願ひします。

○協会への要望

病気や連作障害対応の紹介記事等を載せていただけるとありがたいです。

北原 かわり 栃木県宇都宮市

私は、長井系花菖蒲を中心に大学で実生由来の株の形態変種や花色素について調査分析をしています。将来的には、新品種としての登録を目指して日々花菖蒲とともに過ごしています。

卒業論文の題材として花菖蒲を選んだことが花菖蒲との出会いでした。今では実生数も1000を超え、毎年開花期には大学周辺地域の皆様にも「キレイだね」と言って見てもらえるほどになりました。色とりどりの花々に囲まれていると、暑い中での調査も頑張れます。まだまだ花菖蒲についてわからないことばかりですが、清水理事長先生をはじめ会員の皆様のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

雨宮 良幹 千葉県白井市

このたび本協会に入会させていただくことになりました。現在、千葉大学園芸学部勤務し、教育研究に携わっています。専門分野は植物病理学で、主としてハウレンソウやトマトなどの野菜類を対象に土壌病害の防除に関する研究を行っていますが、時には社会貢献の一環として学外から寄せられる植物の病害虫に関する問い合わせにも対応しています。花菖蒲との付き合いは、2008年から香取市水郷佐原水生植物園との共同研究により黄化腐敗症状の原因解明に取り組み始めたのがきっかけです。本病はこれまでリゾクトニアという糸状菌による病害とされていましたが、調査の結果、それとは全く異なる *Phytophthora* (フィトフトラ) という新種の疫病菌によって発生することが判明しました。発病状況を知るために、北は山形県から南は福岡県まで国内十数か所の菖蒲園を訪れましたが、すべての場所で同じ病原菌による病気が発生していることが確認され、本病が全国的に広く蔓延していることが伺われました。非常に分離が難しい病原菌でしたが、その正体を明らかにすることができましたので、適切な防除対策を講ずれば今後はこの病気が次第に少なくなっていくものと期待されます。それはともかく、この研究に関わったおかげで花菖蒲の美しさや上品さなどに魅せられるようになり、昨年10月に開催された協会の研究会を機に入会することになりました。自宅は集合住宅のため、植物を栽培できるスペースが十分になく、日当たりなどの環境も良いとは言えませんが、それでもベランダで少しばかりの花菖蒲を育てるようになりました。これから会員の皆様いろいろなご教示いただき、立派な花を咲かすことができると楽しみにしています。どうかよろしくお願い申し上げます。

横内 尚子 東京都葛飾区

花菖蒲への思い出は、かつて露地で畑一面に咲かせていたころがなつかしく、知らない人も散歩のコースを変えて見に来てくださり、欲しいだけ

切ってさし上げ喜ばれたこともありました。今は狭いベランダで洗濯物に遠慮して小さくなっている花菖蒲の姿がかわいそうです。

今後は、花菖蒲を「育てる」から他の方のように花菖蒲を「見せていただく」、「写す」に興味の変更を考えています。よろしくお願いします。

富本 左園 東京都世田谷区

紫系統の花が好きなおも思いますが、母への思いが花菖蒲と繋がっています。93才になる母が、いろんな花を育ててみたけれど一番好きな花はやはり花菖蒲と言いました。私は入会するまでは見るだけの楽しみ方でしたが、母に花を見て貰いたい一心で今努力しています。凜とした姿から、華やかに花開く姿に惹きこまれます。母が教えてくれた花を楽しむ心、育てる心を大事にしたいと思っています。

果たして花菖蒲について何も知らない私のような者が会員になる資格があるのかな？と思いつつも、何とか花菖蒲をもっと知り、母に毎年花を咲かせて見せてあげたいという一心で登録させていただきました。

すぐさま送られてきた会報誌には日本的な名称の花菖蒲が美しく咲いており、花菖蒲の未知の世界に魅せられてしまった私は毎日見とれていました。

5月ごろからワクワクしている自分に気がつきました。インターネットでどこが見頃かという情報を得たり、各地の花菖蒲園のホームページを見たりと、実際の花と、PC画面上の花と本の花とで3倍の楽しみを得ています。毎年近くでは明治神宮の菖蒲田や堀切菖蒲園に行きました。

昨年は山形県の長井あやめ園、小田原の城址公園、今年は加茂菖蒲園に行きました。青森の鯉艸郷から苗を購入し、母に鉢を送って貰っているので、一度鯉艸郷へも訪れてみたいと思っていました、今年こそはと思っていた所、震災で行けなくなり、いまだ2年間思いは果たせないであります。

肝心の栽培のほうはと言えば、協会から送られ

てきた苗は1回目は失敗してしまいました。昨年の苗は今年はなんとか咲きました。今年送られてきた苗は元気よく育っています。

又、6月には、大船の協会の展示会に行つては、会員の皆様の素晴らしい花を見せていただき感激し帰ってきます。手元で眺めたいと蕾がついている鉢を購入してくると、その年は豪華に立派に咲いてくれるので、楽しませてもらっていますが、株分けし翌年かというと、会場で見た花があまりにも立派な印象が強いのに比べ、私の手入れが未熟で下手なせいで、花が咲かないばかりか、咲いても小さく見劣りがしたりと、思うような結果は出せないでおります。

今は確実に母の言う通り「花菖蒲っていいなあ」と思える自分の存在に気づいています。4年目になる来年の準備に、本を頼りに今年も株分けも頑張ったつもりでしたが、暑さの中での水遣りの失敗か、既に数鉢枯らしてしまいました。先日の台風でも結構葉が倒れたりで、なんだか心配になってきました。昨年は肥料のやり方が足りなかった点を反省し、今年は肥料を注意するように気を付けています。初心者が手探り状態の中で栽培していますが、来年こそ私の株分けの鉢を母に送って、喜んでもらえるようにと努力しているところです。

まだ一歩足を踏み込んだばかりの花菖蒲の世界ですが、なかなか奥が深く、どこまでやれるかわかりませんが、母に喜んでもらい、自分も楽しみ、家族にも友人にも喜んでもらえるように、これからの人生を花菖蒲と共に長く楽しめる事を願いつつ、日本花菖蒲協会の会報誌の中の情報や、購入した本を見ながら楽しく勉強させていただいております。花菖蒲の世界に多くの方が興味を持ってくれる事を祈って、私自身ももっと道を究めたいと思っています。協会の皆さん今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

○協会への要望

世田谷区では馬事公苑で緑の日に植木協会が緑関連の行事をやっております。その時にガーデニング教室で1000円で寄せ植えをやっています。そんな時に、花菖蒲の株分けの方法を学べればい

いなあとと思っています。以前から株分け、施肥の方法を学べる勉強会を熱望しておりました。今度の勉強会でその機会が得られそうなのでほっとしています。

光緑園(こうりよくえん)

東京都東村山市

東村山市北山公園の管理をしまして種類の多さ、年間を通しての管理の大変さを感じています。

北山公園は「トトロの森」のモデルになった八国山緑地のふもとにあり約5.3haの敷地に170種約10万本が植えられています。6月上旬から菖蒲祭りも開催しますので是非見にきてください。

東村山市役所の委託を請け負って4年目になりました。年々花菖蒲がよくなったと、来園者にいわれるようになりました。会社としましても協会の皆様にいろいろなご指導をよろしくお願い致します。

○協会への要望

2001年に出版した「花菖蒲品種一覧(5155種)」のような本をまた作ってほしいです。

(代表取締役 川合宏治)

後藤 英樹 神奈川県鎌倉市

昔から美しいと思っていた花の名前を調べてみたら花菖蒲でした。それ以来少しでも身近で楽しみたいと素人なりに色々やっております。

興味を持ちました当初は、菖蒲、花菖蒲、野花菖蒲、アヤメ、杜若の区別すらついていませんでした。花菖蒲は全て好きですが、野趣を感じる野花菖蒲またはそれに近い品種により美しさを感じます。コメントを見ていただいても分かる通り全く素人の域を出ておりませんが、ゆっくりと勉強していきたいと思っております。皆様、今後もよろしく願い申し上げます。

○協会への要望

いつも会誌、株の配布、大船フラワーセンターの花菖蒲展とても楽しみにしております。有り難うございます。

重野 良一 新潟県十日町市

花菖蒲は不思議な魅力があり、人をひきつけるものがありますね。私のとても好きな花です。私の住む所はとても雪が積もり、花が咲くのは7月に入ってからです。雪消えとともに空に向かってぐんぐんのび大きなつぼみをふくらませてくるのを心待ちにしています。どんな花が咲くんだっけ、どんな花だろうと、畑に植えているので草がすぐのびて草取りが大変ですがまたいいものです。

楽しみはもうひとつあります。毎年、協会から送られてくるかわいい花菖蒲苗です。協会に入って良かったなと思う時です。さっそく植えました。来春が楽しみです。

あわら市観光商工課 福井県あわら市

花菖蒲は、「市の花」として大切に育てています。毎年、花菖蒲祭りをを行い観光の面でも大いに活用しています。また、種類も毎年少しずつ増やしています。

○協会への要望

育て方のアドバイスが欲しいです。

(坂森 俊太)

大谷 修子 鳥取県東伯郡琴浦町

～花菖蒲に魅せられて～

初めて花菖蒲に出会ったのは親子会で小学生の息子と一緒にあやめ池に行った時だったと思います。しばらく時がたち、あやめ池の花菖蒲の記事がふと目にとまり今度は両親をつれて見に行きました。すると二人ともとても喜んでくれ花の時期の来るのを楽しみにしてくれるようになりました。

そんな折、三年前になりますが、山脇さんから「宇宙」という花菖蒲の話を知りました。2、3回お宅にお伺いして、やっと咲いた「宇宙」を見た時の感動は言葉に言い表せないくらい素敵なもの

でした。

山脇さんのすすめで日本花菖蒲協会に入会したものの昨年は残念なことに一輪も花菖蒲を咲かすことが出来ませんでした。しかし、今年は「私の咲かせた花菖蒲をみたい」という母にプレゼントすることができました。「若桜」という花が私が最初に咲かせた花菖蒲です。これも山脇さんとの出会いがあったらこそと感謝しております。

まだ仕事を持っていますので時間をかけることができませんが素晴らしい楽しみが出来たと本当にうれしく思っております。また、一昨年花菖蒲観賞旅行（下写真参照）に行きました時には皆様に親切にいただき楽しい思い出ができました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



平成 22 年観賞旅行の写真

○協会への要望

昨年協会の皆様と花菖蒲を見に行くことが出来本当に楽しい思い出となりました。今年は震災のため残念ながら行くことが出来ませんでした。また皆様とご一緒できればと思っております。

前田 博 鳥取県鳥取市

～花菖蒲との出会い～

40年程前(高校卒業した頃の頃)に、仕事の関係で県内全域での宅地造成工事の設計・現場管理に携わり、現場の湧水場所に花菖蒲・石菖等の植物を取り入れた設計を行いました。住宅地の憩いの場としてせせらぎに花菖蒲を植えたことを記憶しております。これが私の花菖蒲との最初の出合い

でした。

平成12年より宅地造成工事で琴浦町にお世話になりました。仕事の関係で田中前琴浦町長との出会いがあり町長室によくお邪魔しました。町長室の壁にかかっている淡いピンク色の花菖蒲の写真が目につきお尋ねしたところ、この花は「琴浦桜」という品種で本町出身の山脇信正氏が「琴浦町」誕生を記念して作出したものとお聞きして驚いたことを覚えています。

今年の6月、鳥取産業体育館での花菖蒲展示会（写真）で山脇信正氏（現日本花菖蒲協会副会長）との出会いがあり、「琴浦町にお出掛けの際はお寄り下さい。花菖蒲の苗を差し上げますから。」とのお言葉で、ご自宅を訪れました。南面の広大な芝庭にある花菖蒲の鉢の多さと鉢の出来栄に感動しました。

山脇さんとの巡り合わせに縁を感じました。以後、好きな花菖蒲を究めたいという思いで度々ご自宅に伺い、鉢植えの仕方、水盤づくり等々を実地で教わりました。山脇さんは、私にとって花菖蒲のよき指導者であり、師匠であります。今年からは日本花菖蒲協会にも入会させて頂きました。どうぞよろしくお願ひ致します。



鳥取産業体育館での花菖蒲展示会

田頭 紀和

広島市東区

野生植物を研究材料にしている関係で、広島におけるノハナショウブの自生地や遺伝的多様性を学生たちと調査しています。里地・里山の近くに自生するノハナショウブを眺めていると、人の暮

らしや文化と強く結びついた植物であることを強く感じます。太古の昔から、近代、現代に続く、人と植物の結びつきを幅広く我々に伝えてくれる植物だと感じております。

私の所属する広島女学院大学は、広島駅の北に位置する牛田山の麓にキャンパスを構える女性大学です。広島女学院大学は、学院の校花をアヤメにしており、校章にもアヤメが描かれております。こうしたアヤメを少しでも、学生に触れ合わせたい、身近に感じて欲しいと思い、大学キャンパス内でアヤメを育てる取り組みを開始しました。現在は、アヤメ属植物を大学の彩りとして育てるだけではなく、教育材料、また研究材料として用いながら、自然環境や植物の多様性について学生達とともに学んでいます。

私は、これまで生物多様性の遺伝的評価をテーマに、様々な野生植物の染色体や遺伝子配列等の分析を行ってきました。アヤメは、北半球の砂漠地帯から湿地帯、低地から高山帯まで非常に多彩な環境で種分化を行っている植物です。そして、染色体変化も異数性から倍数性まで、非常に多彩な変化を伴いながら進化してきた植物であることが分かっています。現在は、日本国内やヨーロッパ、ロシアなどに足を運び、自生地の観察を行うとともに、染色体の多様性やDNA配列の自生地間での変化を捉えようと、研究を進めております。

アヤメ属植物に関する研究歴はまだまだ短いため、経験や知識が不十分で、学生達との学習も研究も、日々悪戦苦闘している状態です。特に植物体の栽培では、日々苦戦しております。会員の方々から様々な知識をご教授頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願ひ致します。

○協会への要望

日程の都合で入会后、まだ研究会や展示会に参加できておりませんが、今後、花菖蒲やアヤメ属植物について会員の方々からご教授いただければと思っております。よろしくお願ひ致します。